

調査結果 (希少な生きもの)

植 物 (ミクリ)

2007 年度調査対象外

ミクリは、2012 年度の調査では万水川周辺で生育が確認されましたが、今回の調査では確認の報告はありませんでした。同じく調査対象種のナガエミクリととても似ており、花や実以外では判別が難しいため、確認の報告が少なかった可能性があります。



2012 年度



2018 年度



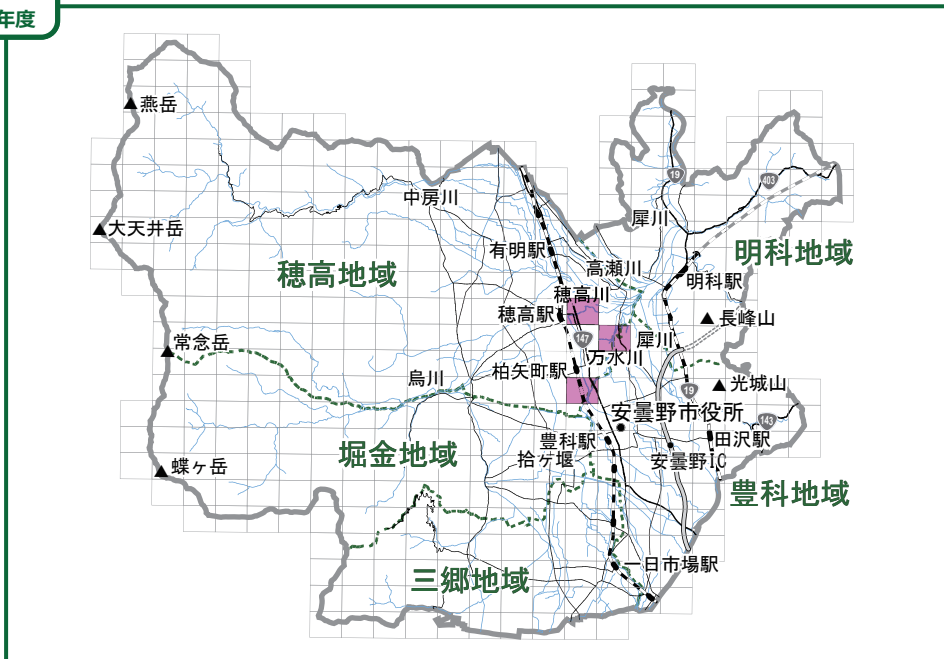
植 物 (ナガエミクリ)

2007 年度調査対象外

ナガエミクリは、2012・2018 年度の調査ともに、万水川周辺で生育が確認されましたが、確認の報告数はいずれも少ないものでした。同じく調査対象種のミクリととても似ており、花や実以外では判別が難しいため、確認の報告が少なかった可能性があります。



2012 年度



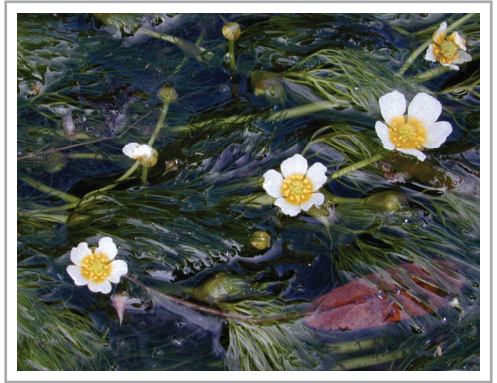
2018 年度



調査結果 (希少な生きもの)

植 物 (バイカモ)

2007
年度



バイカモは、犀川・高瀬川・穂高川の三川合流部や豊科地域の堰などで生育が確認されています。これまで3回の調査で大きな変化はみられておらず、市内の河川や水路などに広く生育していると考えられます。

2012
年度



2018
年度

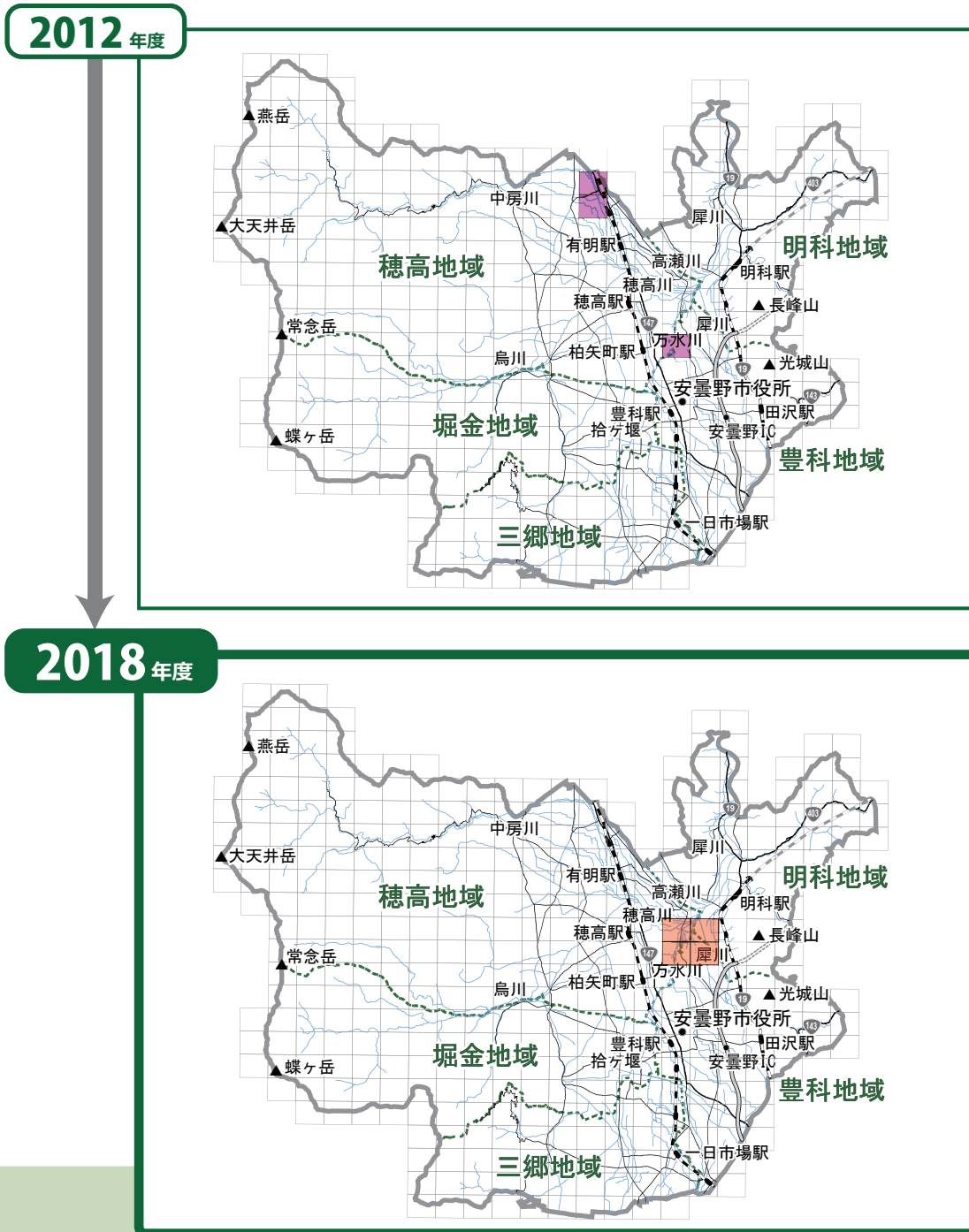


調査結果 (希少な生きもの)

植 物 (カワヂシャ)

2007 年度調査対象外

カワヂシャは、2012・2018 年度ともに、豊科・穂高地域の湧水
地帯周辺で生育が確認されました。同じく調査対象種であり特定
外来生物のオオカワヂシャとは、生育に適した環境が競合する関係
にあり、市内の個体数は減少している可能性があります。



植 物 (カワラニガナ)

2007 年度調査対象外

カワラニガナは、2012 年度には生育の確認がなく、今回の調査では、犀川・高瀬川・穂高川の三川合流部付近の河川敷でのみ確認の報告がありました。河川の石礫河原を好んで生育する種ですが、河原の樹林化などにより生育地が減少している可能性があります。



2012 年度



2018 年度

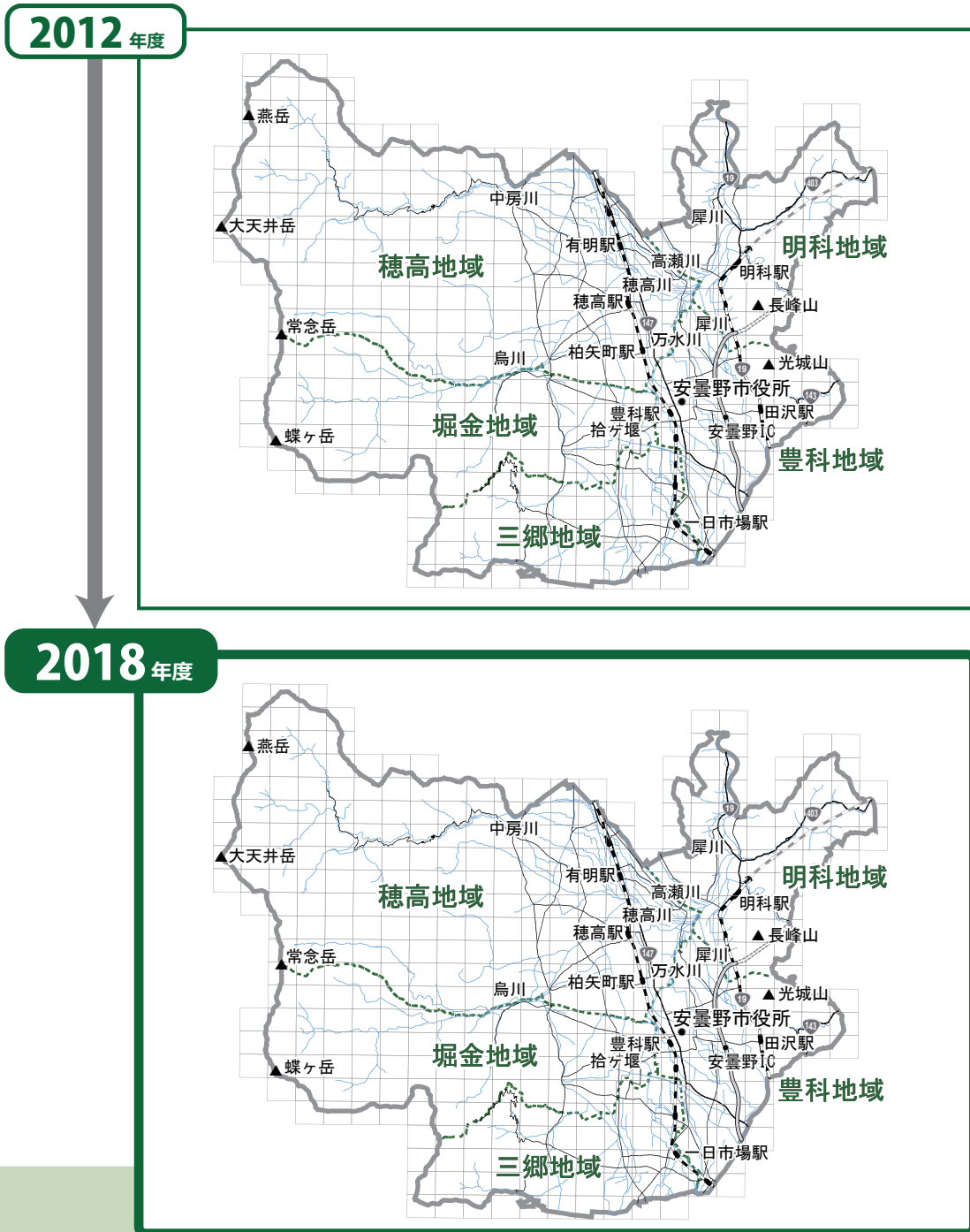


調査結果 (希少な生きもの)

植 物 (イヌノフグリ)

2007 年度調査対象外

イヌノフグリは、2012・2018 年度ともに生育確認の報告はありませんでした。農地周辺の土地改良や除草剤の使用による影響のほか、オオイヌノフグリなどの外来種とは、生育に適した環境が競合する関係にあり、生育地が著しく減少していると考えられます。



調査結果 (希少な生きもの)

植物 (アマナ)

2007 年度調査対象外

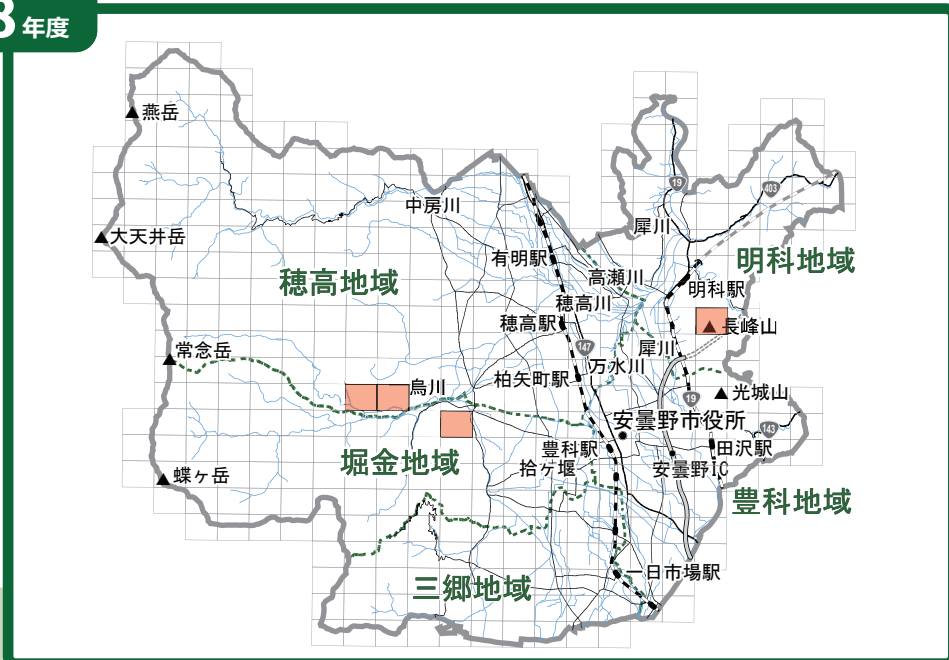
アマナは、穂高・堀金・明科地域の山麓部の一部で生育が確認されています。昔は食用として利用されてきた植物ですが、植林や草原の樹林化によって生育地が減少している可能性があります。



2012 年度



2018 年度



植 物 (ユウスゲ)

2007 年度調査対象外

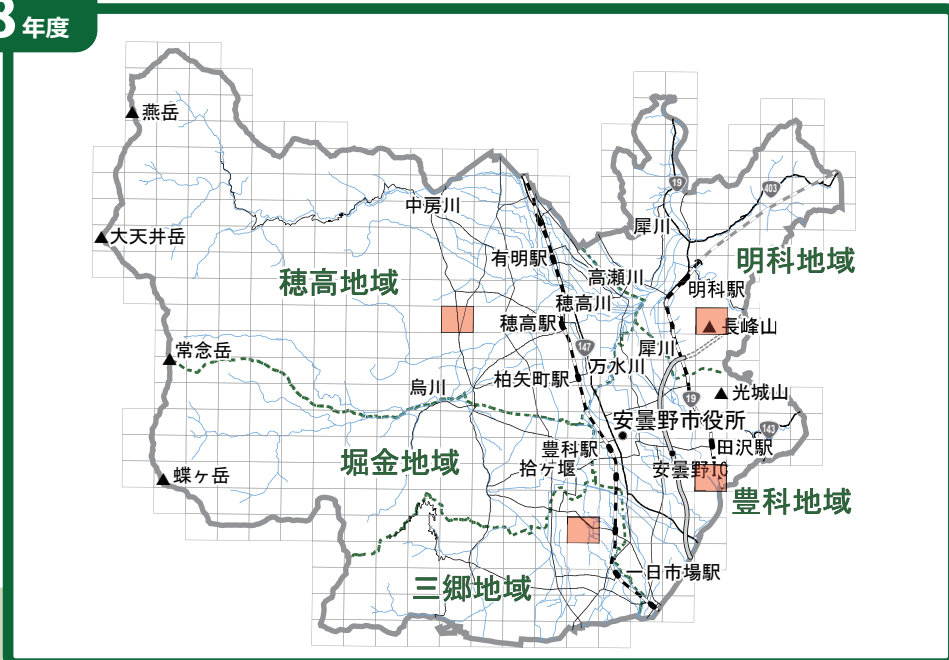
ユウスゲは、2012・2018 年度ともに、長峰山周辺で確認されたほか、一部の山麓部で生育の確認の報告がありました。確認状況に大きな変化はみられておらず、市内の開けた草原などに生育していると考えられます。



2012 年度



2018 年度



植 物 (ササユリ)

2007 年度調査対象外

ササユリは、2012 年度の調査では生育確認の報告はありませんでしたが、今回の調査で、市内の一部で確認されました。生育に適した環境の減少や園芸用の採取による個体数の減少が懸念されており、今後の生育状況を見守ることが望まれます（採取による減少が懸念されるため、確認場所の情報は記載していません）。



2012 年度



2018 年度



調査結果 (希少な生きもの)

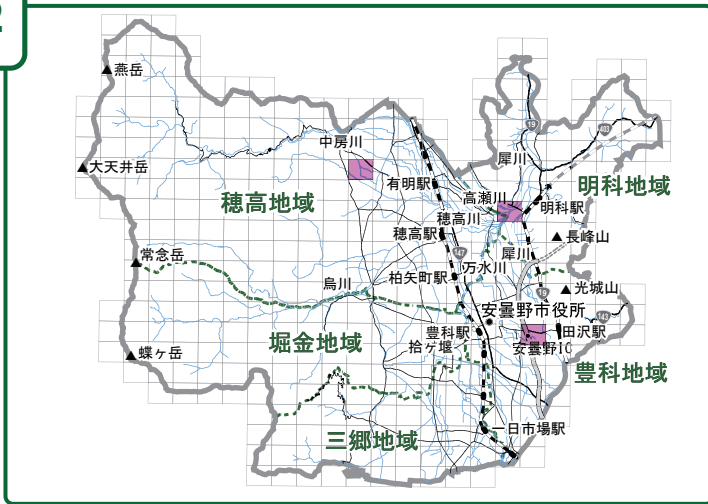
魚 類 (カジカ)

2007
年度



カジカは、犀川・高瀬川・穂高川・
烏川などで生息が確認されています。

2012
年度



年度ごとに確認位置には多少違いが見
られますが、犀川周辺では継続して確
認されています。犀川や高瀬川など
では、昔からカジカ漁が行われていま
すが、近年は漁獲数が減少傾向にある
といわれており、今後の状況を見守る
ことが望まれます。

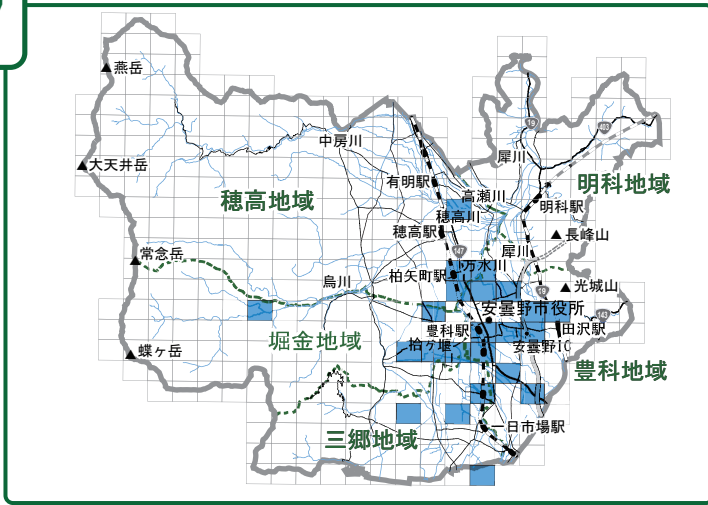
2018
年度



調査結果 (希少な生きもの)

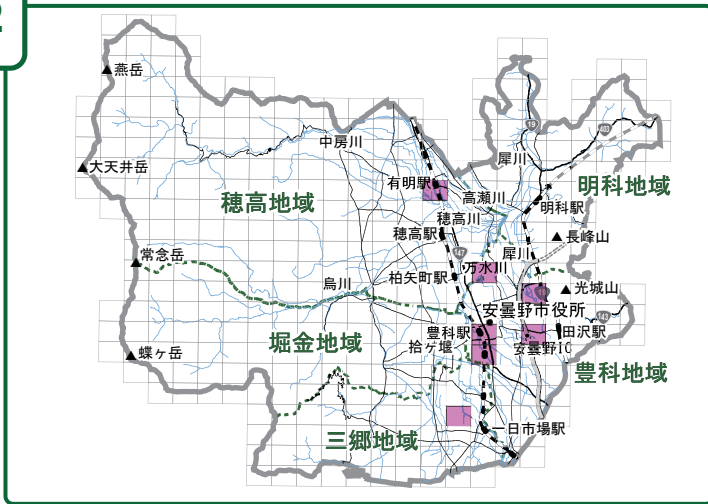
魚 類 (ドジョウ)

2007
年度

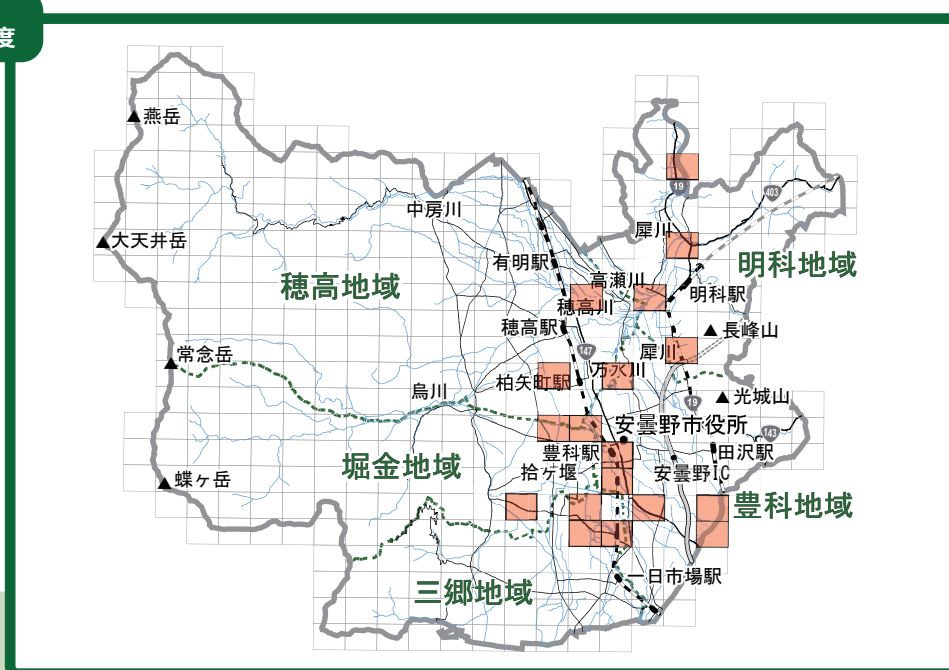


ドジョウは、平地を中心に広い範囲で生息が確認されており、これまで3回の調査で大きな変化はみられていません。しかし、市内にも生息している外来種のカラドジョウと交雑や生息環境が競合する可能性もあり、今後の状況を見守ることが望めます。

2012
年度



2018
年度



調査結果 (希少な生きもの)

魚 類 (ホトケドジョウ)

2007 年度調査対象外

ホトケドジョウは、豊科・三郷地域の湧水の流れる一部の河川や水路などにおいて生息が確認されています。これまで2回の調査では生息状況に大きな変化はみられていませんが、生息には生息地の水環境（水質や水温など）が重要な種であることから、今後の生息状況を見守ることが望まれます。



2012 年度



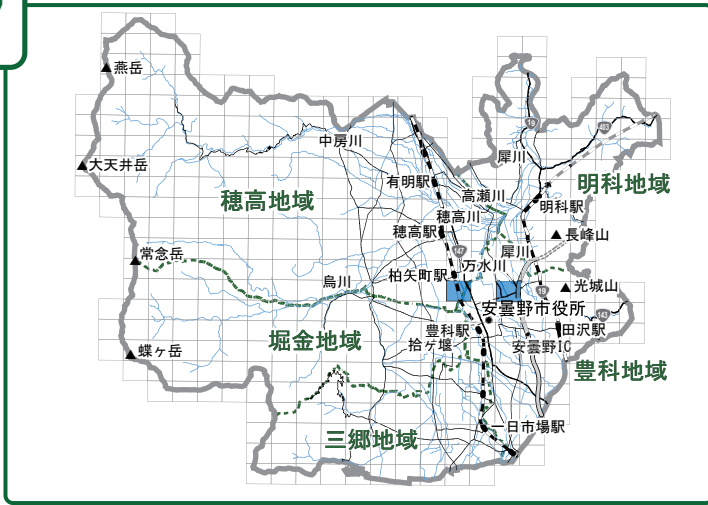
2018 年度



調査結果 (希少な生きもの)

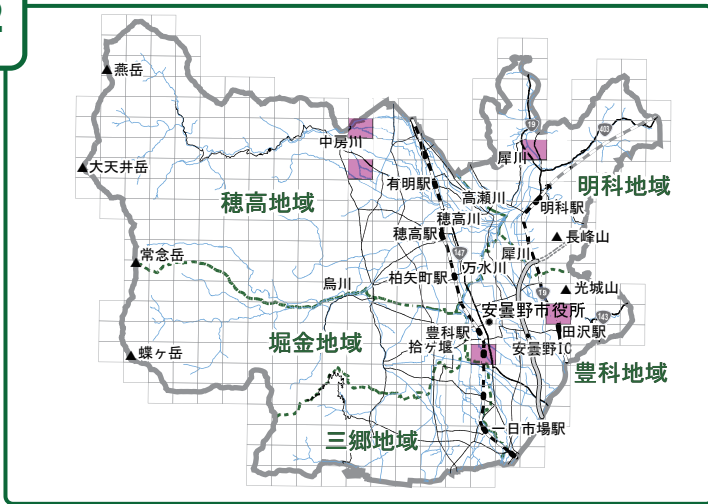
昆虫類 (ゲンジボタル)

2007
年度



ゲンジボタルは、年度により生息が確認された場所に違いがありますが、犀川や万水川などの河川や用水路が合流する穂高・明科地域での確認が多い傾向がみられます。ゲンジボタルの生息が確認されている場所では、幼虫の餌となるカワニナも確認されており、今後も両種の生息に適した水環境を保全していくことが望まれます。

2012
年度



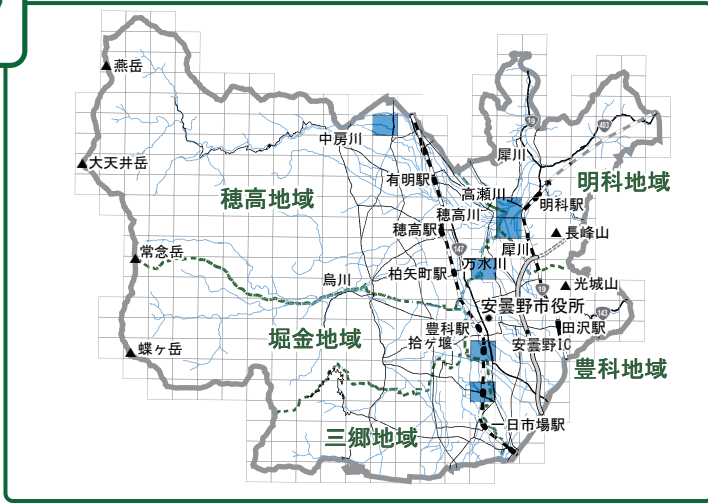
2018
年度



調査結果 (希少な生きもの)

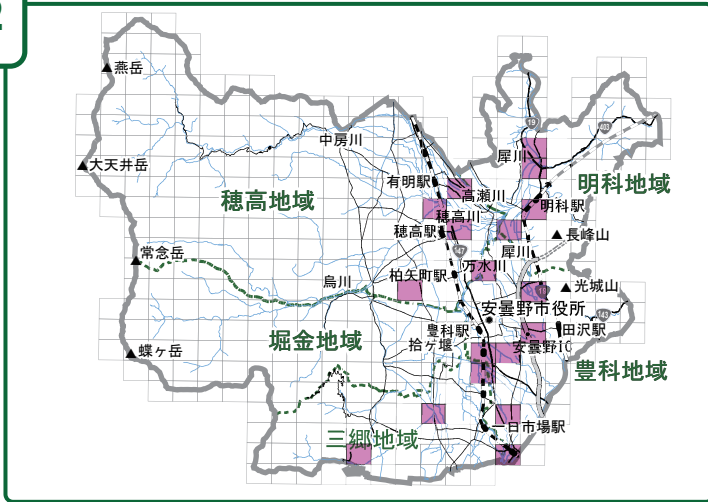
昆虫類 (ヘイケボタル)

2007
年度

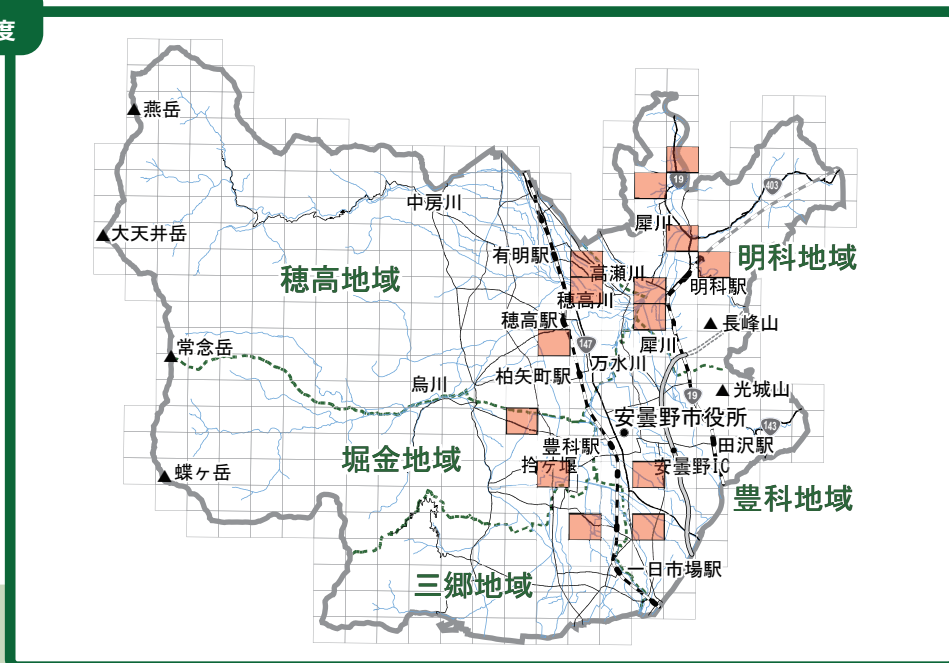


ヘイケボタルは、平地から山麓部にかけての広い範囲で生息が確認されており、2007年度に比べて2012・2018年度は確認記録が多い傾向がみられます。主に平地の用水路や水田で生活するヘイケボタルにとって、用水路や水田の水がきれいになり、餌となるカワニナ等も含めて生活に適した場所が増えた可能性があります。

2012
年度



2018
年度



調査結果 (希少な生きもの)

昆虫類 (アオハダトンボ)

2007 年度調査対象外

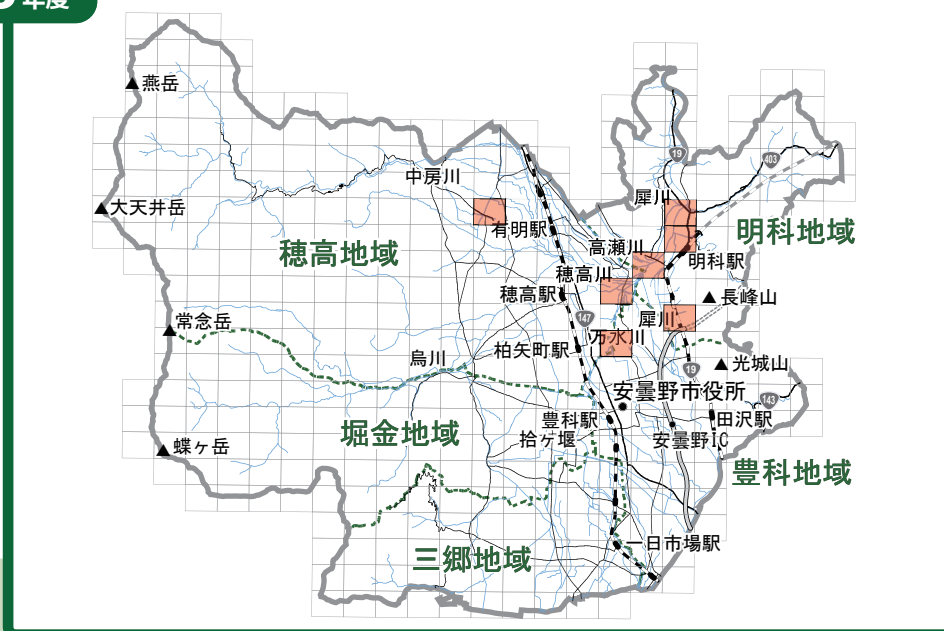
アオハダトンボは、平地を流れる犀川などの河川や用水路で生息が確認されています。2012 年度と 2018 年度での確認場所がほとんど重なっていないことから、今後も継続して動向を見守っていくことが望めます。



2012 年度



2018 年度



調査結果 (希少な生きもの)

昆虫類 (タイコウチ)

2007年度調査対象外

タイコウチは、平地から山麓部にかけての水田や池、用水路、それに学校のプールなどで生息が確認されています。2012・2018年度はどちらも平地の広い範囲で確認されており、生息状況に大きな変化はみられませんでした。



2012年度



2018年度



昆虫類 (オオルリシジミ)

2007 年度調査対象外

オオルリシジミは、2012 年度に比べて確認記録が多くなりました。
 これは、継続した保全活動等によりオオルリシジミに適した場所が
 増えてきたことによるものと考えられ、今後も確認場所が増えてい
 くことが期待されます (採集による減少が懸念されるため、確認
 場所の情報は記載していません)。



2012 年度



2018 年度



鳥 類 (ヒクイナ)

2007 年度調査対象外

ヒクイナは、今回の調査で三郷地域で 1 例の確認があるのみです。

ヒクイナは主に水辺のヨシ原や水田のイネの間にかくれるように生活し、姿を見ることが難しいことから、実際はもう少し多く生息している可能性があります。



2012 年度



2018 年度



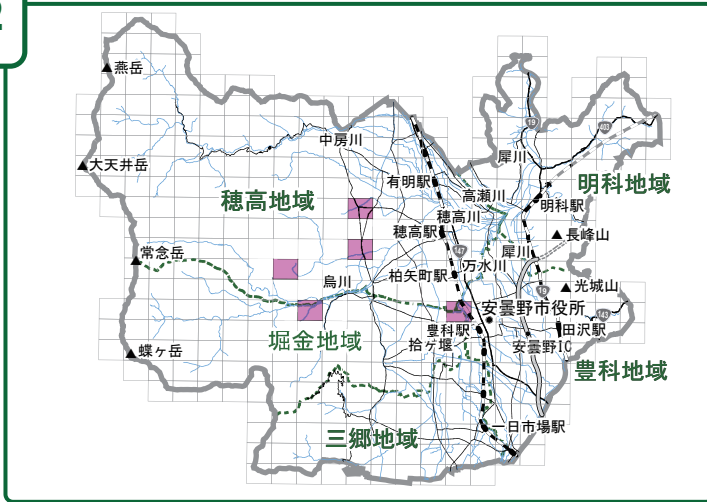
鳥 類 (ヨタカ)

2007
年度



ヨタカは、主に西部の山麓部から山地にかけて生息が確認されていますが、今回は1例の確認のみでした。全国的に減少しているとされている種であり、森林の伐採地や若い植林地に営巣するため、そのような環境が減っていることが減少の理由の一つと考えられています。今後も継続して動向を見守っていくことが望まれます。

2012
年度



2018
年度



調査結果 (希少な生きもの)

鳥 類 (アオバズク)

2007 年度調査対象外

アオバズクは、平地で生息が確認されていますが、2012年度と2018年度でそれぞれ2例ずつで確認場所も異なります。アオバズクは、主に巣を造る樹洞があるケヤキなどの大きな広葉樹がある社寺林や屋敷林で確認されています。これからも樹洞がある大きな木を大切にしていくことが望まれます。



2012 年度



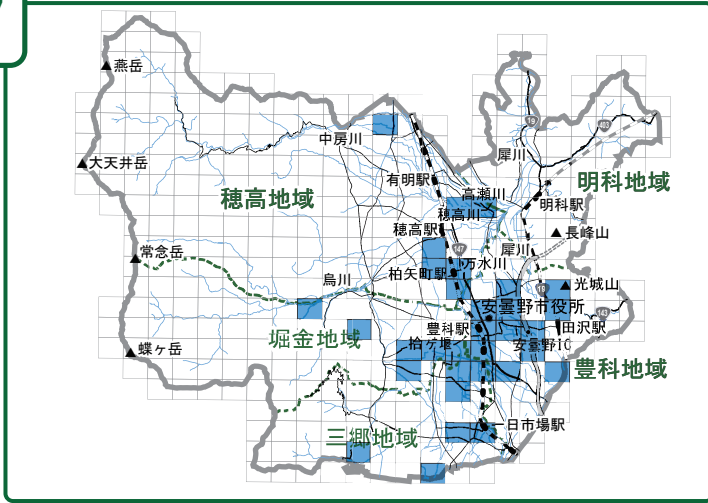
2018 年度



調査結果 (希少な生きもの)

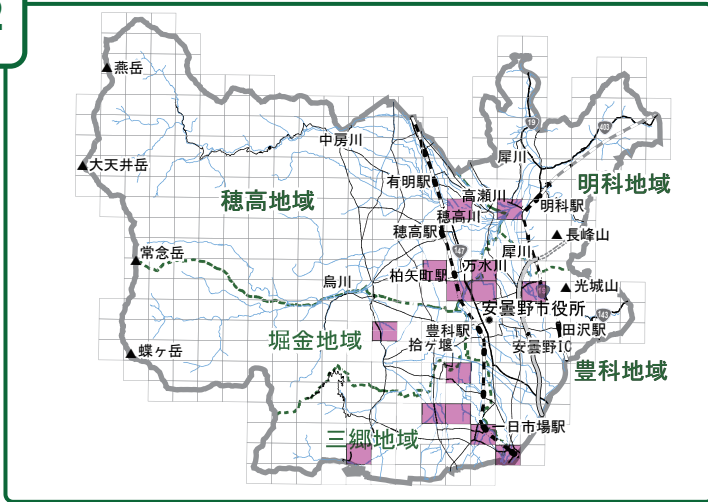
両生類 (トノサマガエル)

2007
年度

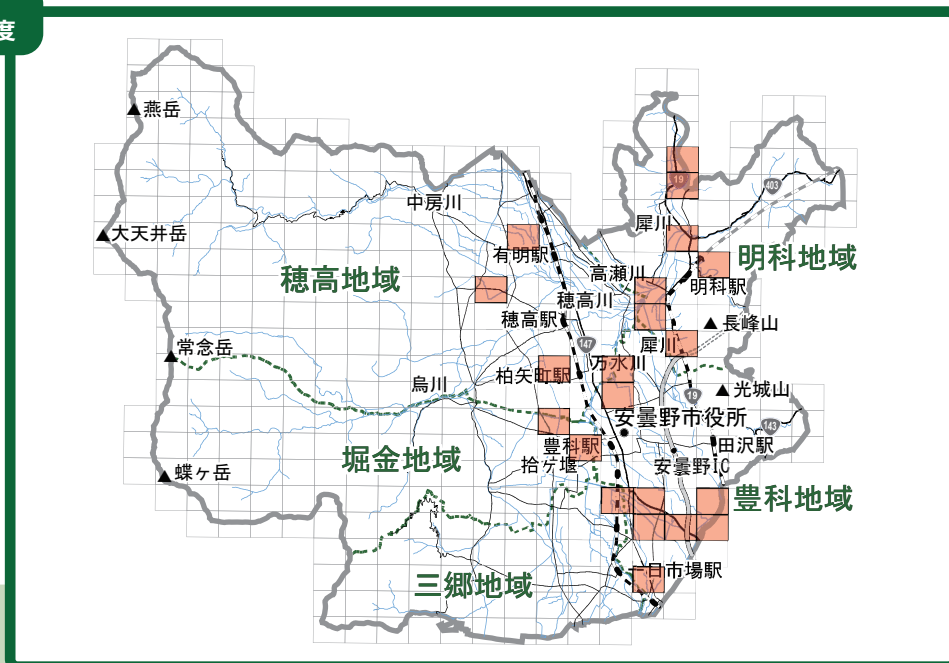


トノサマガエルは、平地を中心に広い範囲で生息が確認されています。今回の調査では、これまで確認の報告がなかった明科地域の犀川沿いなどでも確認の報告がありました。トウキョウダルマガエルとの生息環境の競合や交雑の可能性があることから、今後の生息状況を見守ることが望まれます。

2012
年度



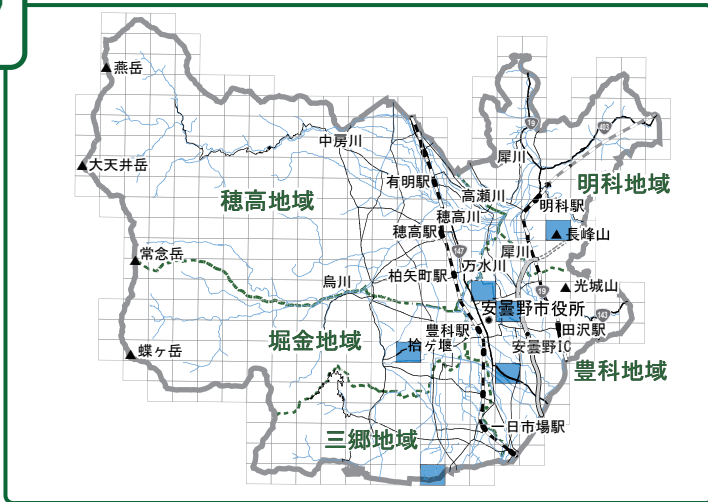
2018
年度



調査結果 (希少な生きもの)

両生類 トウキョウダルマガエル

2007
年度



トウキョウダルマガエルは、平地で生息が確認されています。今回の調査では、犀川・高瀬川・穂高川の三川合流部付近でも確認の報告がありました。トノサマガエルとの生息環境の競合や交雑の可能性があることから、今後の生息状況を見守ることが望まれます。

2012
年度



2018
年度

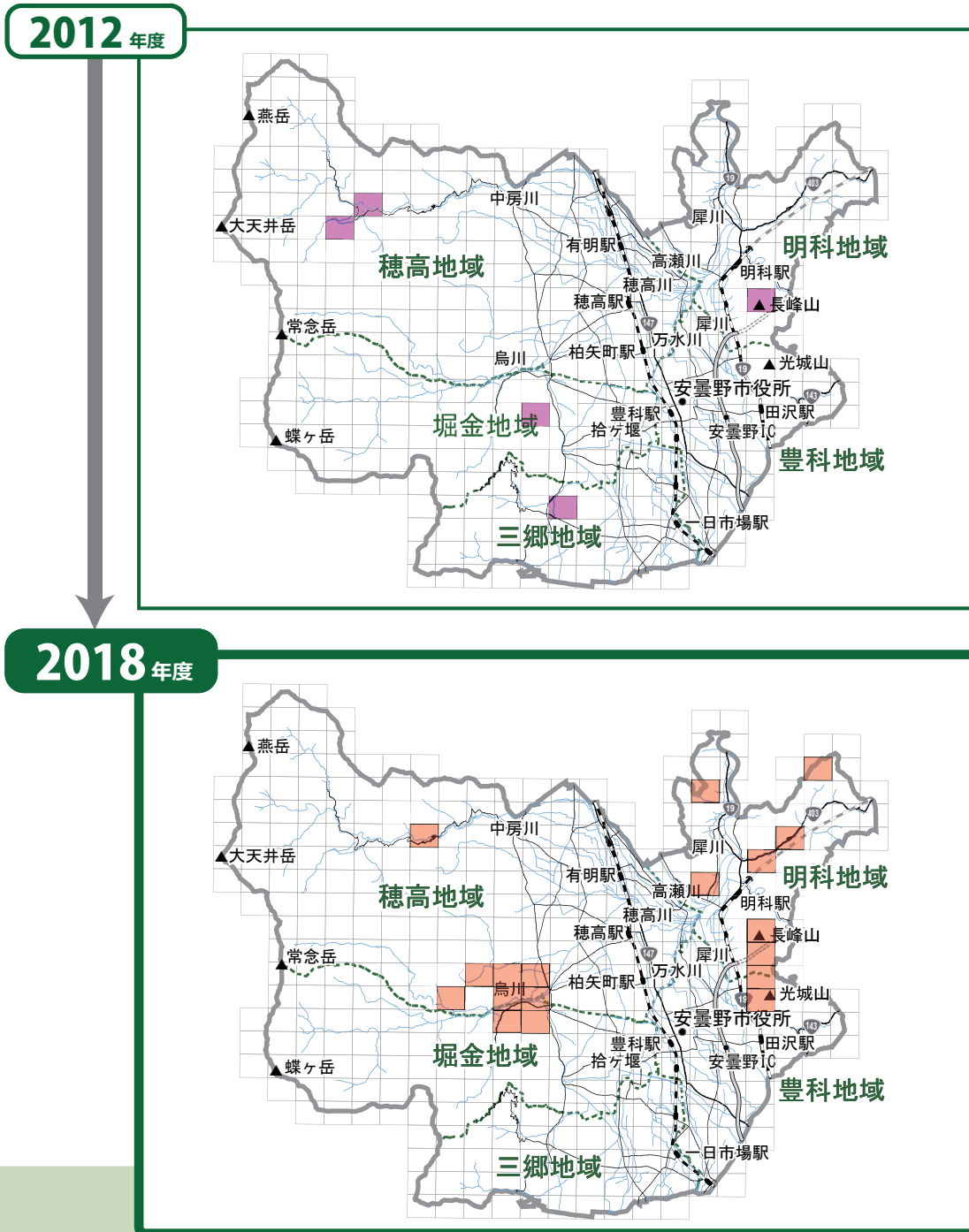


調査結果 (希少な生きもの)

哺乳類 (ニホンカモシカ)

2007年度調査対象外

ニホンカモシカは、山地で生息が確認されています。今回の調査では、明科地域のほか、烏川周辺でも複数確認の報告がありました。ニホンカモシカはニホンジカとの生息環境が競合する関係にあり、ニホンジカが増加した場合は個体数が減少する可能性があることから、今後の生息状況を見守ることが望まれます。



調査結果 (希少な生きもの)

陸上貝類 キセルガイの仲間

2007 年度調査対象外

キセルガイの仲間は、2012・2018 年度ともに確認されませんでした。森林の落ち葉や倒木の隙間などに生息する見つけづらい種であるため、確認の報告がなかったと考えられます。



2012 年度



2018 年度

